

# 時局に思う

日本遺族会会長  
参議院議員

## 水落敏栄



よく戦後七十年余り、国民の八割が戦後生まれとお話しします。やはり戦前・戦中・戦後では、考え方に大きな隔たりがあるのは否めません。生まれた時代背景が、人格に及ぼす影響を考えれば至極当然のことであります。しかし、人としての

喜びや悲しみは時代を超越するものだと思います。戦後七十年だった昨年は、戦争に関する映画、テレビ、書籍、展示など、多くの特集が組まれました。昭和館での特別展示には、七月末から的一カ月で二万二千人に上る来場者が訪れ、多くの若者が足を運び、皇太子様ご一家、秋篠宮様ご一家もご見学においでになりました。

またインターネット検索サイト大手のヤフージャパンが「戦争の記憶を百年後に伝える」という尊い取り組みを企画され、遺族会の代表として取材を受けました。若い世代に幅広く普及しているIT企業がこうした取り組みをされた背景には、多くの若い世代が関心を抱いているという表れであり、こうした思いを、節目の年だけのものにするのではなく、常時持ち続けていただくことが大切であり、戦後七十年の今年は、そうした試金石となると感じています。

現在、日本遺族会では、最大の懸案である組織の後継者づくりに取り組んでおり、各都道府県においても取り組みが進んでおります。しかし青年部の結成には各都道府県で温度差があることは否めません。容易な取り組みではないのです。ただ、各地でお会いする孫、ひ孫の方々の真剣さには希望を抱いています。

人は皆、自らの幸福を求め、日々を過ごしていきます。しかしその当たり前のような現実にも、平和な社会であることが前提であり、それは人々の大きな努力の上に成り立っています。しかし、平和な社会に生まれた世代には、そうではない時代に思いを馳せるのはとても難しいことだとも思います。だからこそ、戦争の悲惨さ平和の尊さを身を持って体験した私たちには、その体験を伝える社会的責務があると考えます。

私は戦後一貫して世界の恒久平和を希求し活動してきたこの尊い組織を次の世代へ繋げるために、孫、ひ孫の会の組織化に力を尽くして参ります。そして、私たちのような遺族を二度と作らないために、遺族の声を国政に届け続け、平和の灯を守り続ける覚悟でござりますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この春、フェイスブックを始めました。まだまだ始めたばかりで、うまくできていませんが、興味がある方はご覧ください。

https://www.facebook.com/mizuochi0224